

漁業後継者を志して

与那国町漁業協同組合青年部

上原正旦

1. 地域の概要

私の住む与那国島は、日本の最西端に位置する国境を目の前にした島で、天気の良い日には、遠く台湾の山なみが見えます。

県都那覇からは、南西におよそ520 kmの距離にあり、与那国島をとりまく自然環境は、古来、多くの詩と伝説をはぐくむ風土となってきました。

2. 漁業の概要

与那国町漁協は、196名の組合員で構成され3トン未満の和船を主体に72隻の漁船が操業しています。近海には、ソネが多く天然の好漁場となっており、夏場は黒潮にのって回遊するカジキ、カツオ、マグロやサワラ等の曳縄漁業がさかんで、とくに島の西方数マイル沖で行なわれるカジキ漁は、全国的にも有名となっています。

また冬場にはフェダイ類（マチ類）や、ハタ類（ミーバイ）などの底漁一本つりが主体となり、年間の総水あげ額は、約1億6千万円で与那国町の一次産業総生産の3割を占める重要な産業です。

3. 青年部の組織

青年部は昭和55年に結成され現在部員数20名です。

主として組合事業への協力、技術の交換、親ぼく会等の活動を行っています。

4. 課題選定の動機

私は、漁家の4男として生まれ、小さいころから海に親しみ、父と漁に出ることもありました。

高校進学のため島をはなれたが夏休みなど島へ帰ると父の漁船に乗り漁の手ほどきを受けました。漁業の技術をおぼえていくにつれ、自然を相手にいっしょうけんめい、はたらくほど収入につながる漁業が好きになり、私の仕事は、これしかないと

思うようになりました。そのことで家づくにも相談し、多少の不安はあったものの、高校を卒業したら漁業に従事することを決意しました。

5. 実践活動の状況

その当時使用していた漁船は、木造で装備も古かったので、私が漁業を志したことをきっかけに漁船を新造することになりました。

建造資金は漁協から借入れ、3.5トンのFRP漁船を石垣市内の造船所に発注しました。同時にカラー魚探やロランA、まきあげ機、無線電話機などの漁業機器も一新し、漁労作業の安全、省力化効率化を図りました。そのおかげで漁獲高も順調にのび、与那国町漁協内でも上位の実績をのこすことができました。

しかし、56年から57年にかけて、父が体調を悪くしたため私と兄の2人での操業となり、何分未熟な技術であったので、漁獲も大きく減少してしまいました。

今では父も快復し3名で操業していますが、その間失敗を重ねながらも、自分なりに多くの経験を得ることができ、漁業後継者としての自覚と自信がめばえてきました。

また一方では、青年部を中心にカジキ曳縄漁の改善にも取り組み、地区担当普及員のアドバイスのもと、静岡県の下田から取りよせたゴム製のギジ餌を使い試験操業を行ない、好結果を得ております。それから、久部良漁港沖合5～6マイルの場所に、今年度の事業として県、町、漁業振興基金の補助で表層浮魚礁（パヤオ）を設置しています。図一1、図一2

これがはやくも効果をあらわし、カジキ、カツオ、マグロ、サワラなどの魚がつき大漁でにぎわっています。これまでの場合、カジキ漁は9月までにおわるのが常であるが、パヤオ魚礁が設置された今年は、例年より、1ヶ月以上も漁期が延長され漁獲生産の増加につながっております。また波があらくて一本つり操業が困難な時でも、片道15分～20分のパヤオ魚礁では、曳縄操業ができるようになりました。

以上のように、操業日数の延長、燃料の節約の面でも大きな効果が出ています。実際、パヤオ魚礁を設置してからは、1ヶ月間の漁協燃油の売り上げが前年の半分近くに減っており、漁協にとってはよろこぶべきか、なげくべきか思案するような状況です。一方、パヤオ魚礁は海面に浮いているため、波浪の影響を受けやすく、ブイやロープ、安全灯などの管理がたいへんです。その点について私たちは、十分話し合いを

もち、一致協力してパヤオ魚礁の管理をすることを申しあわせてあります。

これまでに、何度かブイがはずれたり、ゆるんだりしたため、その補強作業を行い魚礁の維持管理につとめております。

6. 今後の課題

与那国周辺は良い漁場が多く、それを活用するため、先進地視察や関係機関との情報交換により技術の向上をはかり、釣獲効果をあげるのが課題です。

また、現在パヤオ魚礁からは、カジキの他、2kg前後のカツオ、マグロを漁獲しているが、その下層に20kg～80kgのキハダがついており、それはほとんど漁獲されていません。それ等を釣獲する漁法を導入し、新しく本土市場出荷魚種に加えていきたいと思っております。

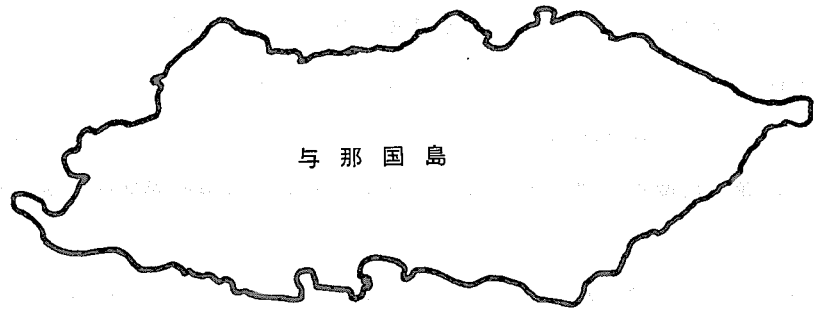
漁業後継者は今日、全国的にも減少しており、水産業の先行きが心配されています。

たしかに自然を相手にした作業は、ときにはきびしいものがあります。反面、自分の努力、くふうしだいで大いに発展する余地もあり、たいへんやりがいのある仕事でもあります。

私たち青年漁業者が中心となって漁具漁法の改良及び省力化をはかり、技術交流と親睦を深め、活力ある漁村をつくっていききたいと思っています。

沖繩県漁業振興課 課長 佐藤 隆夫

パヤオ魚礁 管理 報告書

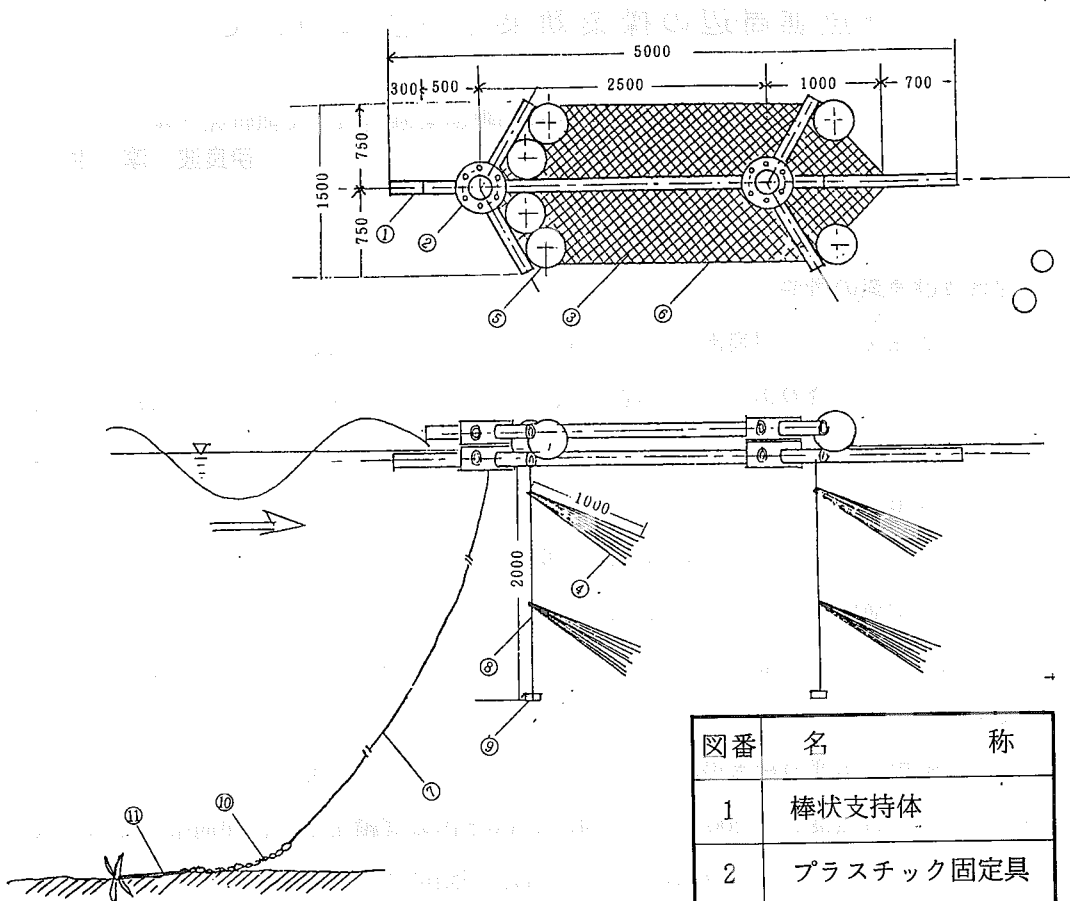


設置年月日 昭和58年9月29日

No. 1. $N24^{\circ}-25'-30''$, $E 122^{\circ}-55'-05''$

No. 2. $N24^{\circ}-25'-20''$, $E 122^{\circ}-56'-20''$

図-1 表層浮魚礁設置場所



図番	名 称
1	棒状支持体
2	プラスチック固定具
3	特殊網状物
4	人工海藻
5	浮力体
6	棒ロープ
7	係留ロープ
8	人工海藻用ロープ
9	人工海藻用重り
10	チェーン
11	アンカー

(単位mm)

図一2 表層浮魚礁 (SNT-5型) の構造図